

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

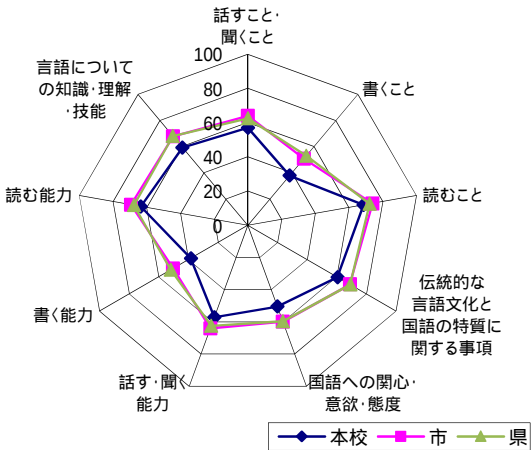
第4学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人
第5学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況				
分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	57.1	64.0	62.5
	書くこと	38.0	50.9	53.1
	読むこと	68.7	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	50.4	59.9	59.7
	話す・聞く能力	57.1	64.0	62.5
	書く能力	38.4	50.4	52.0
	読む能力	63.5	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	59.4	67.9	68.2

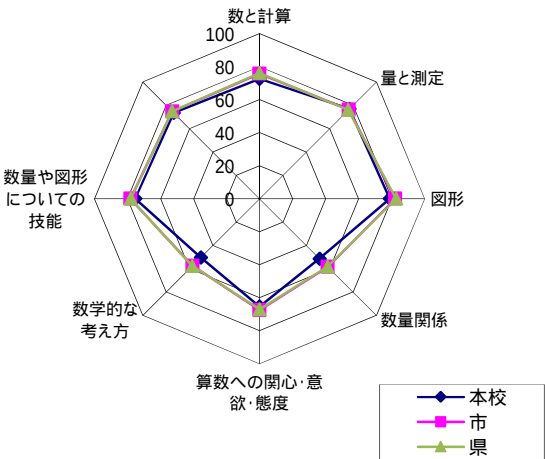


指導の工夫と改善			○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
話すこと・聞くこと	● 領域の平均正答率は57.1%で、県平均より5.4ポイント低い。 ○ 「大事なことを落とさないように聞き取る」では県平均とほぼ同じである。 ● 「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考える」では県平均より8.6ポイント下回った。	・授業の中に子どもたち同士の学び合いの場を積極的に取り入れることにより、話す・聞く力の向上を目指していく。 ・学級活動やインタビューなど、人前で話す機会を増やしていく。	
書くこと	● 領域の平均正答率は38.0%で、県平均より15.1ポイント低い。 ● 「書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」では、県平均より19.1ポイント下回った。 ● 「理由や事例を挙げて文章を書く」では、県平均より17.4ポイント下回った。	・作文・日記指導を通して、書きたい事柄を整理し、内容の明確な文章を書く練習を繰り返し行わせる。 ・国語だけでなく、他教科とも関連させ、書こうとすることを分かりやすくまとめる活動を増やし、書く力を向上させていく。	
読むこと	● 領域の平均正答率は68.7%で、県平均より3.5ポイント低い。 ○ 「目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る」では、県平均より2.1ポイント上回った。 ● 「登場人物の気持ちを読み取る」では、県平均より10.1ポイント下回った。	・物語文においては、登場人物の性格や心情を捉えながら読み取る学習を強化していく。 ・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにする。	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 領域の平均正答率は60.5%で、県平均より8.6ポイント低い。 ○ 国語辞典の使い方に関する設問は、県平均とほぼ同じである。 ● ローマ字の正しいつづりを選択する設問では、県平均より12.7ポイント下回った。	・漢字やローマ字等の基礎的な学習内容を、自主的に繰り返し復習することで定着が図れるよう、家庭学習や朝学習を充実していく。 ・文の構成（主語・述語・修飾語）について、授業の中で繰り返し指導していく。	

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.7	75.8	76.1
	量と測定	77.0	76.5	76.0
	図形	78.9	82.1	82.7
	数量関係	51.4	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	65.3	67.4	67.0
	数学的な考え方	50.4	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	75.4	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	73.6	74.8	74.9



指導の工夫と改善

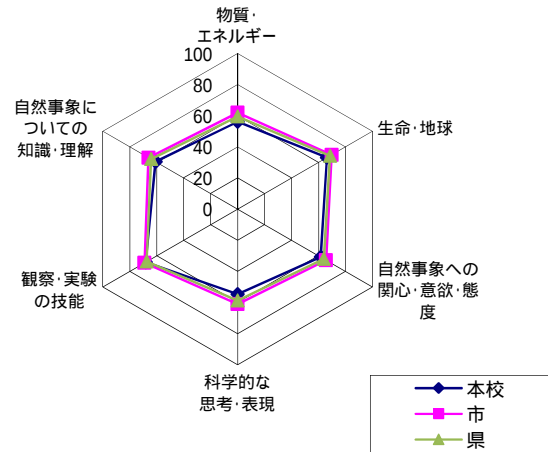
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	● 領域の平均正答率は、県平均と比べて3.1ポイント低い。 ○ 分数の数直線上での表し方の問題では、県平均を6.0ポイント上回った。 ● 整数 - 小数第一位の計算では、県平均を20.1ポイント下回った。 ● わり算の余りを切り上げて処理し、その理由を説明する問題では、県平均を11.4ポイント下回った。	・ドリルや復習プリントなどを活用し、繰り返し計算練習をすることにより、基礎・基本となる計算力の定着を図る。 ・文章題や問題文を読み取る力を伸ばすために、類似した問題を定期的に、継続して解く練習をするようにさせる。 ・整数 - 小数、整数 + 小数などの問題の計算のしかたを確認し、繰り返し練習するようにさせる。
量と測定	○ 領域の平均正答率は、県平均と比べて0.5ポイント高い。 ○ 2つの時刻を比較して、その間の時間を求める問題では、県平均を7.4ポイント上回った。 ● 1分 = 60秒の関係についての問題では、県平均を5.0ポイント下回った。	・数学的用語や単位の意味、使い方を確認し、ドリルや復習プリントで定着を図る。 ・学習課題を数直線や図を使って表す活動を取り入れ、数量感覚をつかみやすくする。 ・長さ、重さ、時刻と時間について、プリント等で復習をしたり、継続して指導したりする。
図形	● 領域の平均正答率は、県平均と比べて3.2ポイント低い。 ○ 正三角形を作図する問題では、県平均を4.1ポイント上回った。 ● 球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める問題では、県平均を11.4ポイント下回った。	・図形の定義や性質を確実に理解させるために、具体物を活用する。 ・正確な作図ができるように、器具の操作や手順をていねいに、繰り返し指導する。
数量関係	● 領域の平均正答率は、県平均と比べて7.0ポイント低い。 ○ □を使って減法の式に表す問題では、県平均を1.1ポイント上回った。 ● 棒グラフを正しく読み取る問題では、県平均を17.2ポイント下回った。 ● 棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して棒グラフをかくことができない理由を説明する問題では、県平均を3.2ポイント下回った。無回答が40.8%だった。	・式の意味の理解を深めるために、ペア学習やグループ学習などを行って、自分の考えを説明したり、友達の説明を聞いたりする、学び合いの活動を取り入れる。 ・学習課題を、図や数直線、式などを使って表す活動を取り入れることにより、式を立てられるようにする。 ・グラフや表の読み取り方を継続して指導する。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	61.9	59.4
	生命・地球	66.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.6	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	54.7	61.0	58.8
	観察・実験の技能	68.1	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	60.9	66.1	64.2



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	● 領域の平均正答率は、56.1%で県平均より3.4ポイント低い。 ○ 設問別では、はね返した光を重ねたところの明るさを答える問題の正答率が県平均を7ポイント上回っている。 ○ 形の変化とその重さの関係を考察する問題の正答率は80%を超えている。 ● 種類の異なる同体積の物を情報を読み取り推測する問題の正答率は県平均を10ポイント以上下回っている。 ● 磁石の極の性質の問題の正答率は県平均より7ポイント以上下回っている。	・「じしゃくのせいしつ」の単元の正答率が全体的に低いため、実験の結果を考察する際に、キーワードなどを提示し理解につながるようにする。 ・調べるために必要な実験の条件を考えさせて予想する時間を確保し、実験の目的と実験方法のつながりが理解できるよう重点的に指導していく。 ・同体積の物体の関係について、実感に伴った理解ができるよう素材の準備や情報の使い方などを工夫し、今後の指導に生かしていく。
生命・地球	● 領域の平均正答率は66.2%で県平均より2.3ポイント低い。 ○ 設問別では、ダンゴムシの正しい観察の問題の正答率は90%を超えて、県平均を5.5ポイント上回っている。 ○ ホウセンカの種を正しくまいて世話をすることの問題の正答率は、県平均を18.4ポイント上回っている。 ○ 温度計を正しく読むことの問題についての正答率は県平均を5.4ポイント上回っている。 ● こん虫の育ち方についての問題の正答率は県平均を下回っており、50%程度であった。 ● 植物のからだのつくりの理解についての問題の正答率は県平均より7.5ポイント下回っている。 ● 太陽とかげのうごきについての理解の問題の正答率は県平均より7.1ポイント下回っている。	・植物のからだの名称(根、くき、葉)について、きちんと押さえていく。また、観察の場面で具体的に確かめるなど工夫して指導する。 ・昆虫のからだのつくりについては、頭、むね、はらの3つの部分に分かれていることや、6本の足があることなどの条件についてよく確かめながら学習をすすめるようにする。 ・太陽とかげの動きについては、観察や実験を通して理解できるように丁寧に指導を行う。また、実験や観察から考察していく問題の正答率が低い傾向にあるので、普段の授業の中で分かることや気づいたことなどをじっくりと考えたり、書いたりできる時間を確保し、思考力を高めるように継続して指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問紙調査

傾向と今後の指導上の工夫

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

○ 「家で、学校の宿題をしている」に「はい」と回答した割合は県の平均より6.5ポイント高く、91.8ポイントだった。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」では、肯定的な回答が県の平均より7.7ポイント上回っている。家庭学習が身についていると考えられ、今後も家庭と連携し継続して取り組ませていきたい。

○ 「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」に「はい」と回答した割合は69.4ポイントで、県の平均を13.4ポイント上回っている。また、グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的な回答をした割合は県の平均を8.8ポイント上回っている。学習に対して前向きに取り組んでおり、より学習意欲を高め、さらなる知識の定着が図れるように学習活動を工夫していきたい。

○ 「自分のよさを人のために生かしたいと思う」に「はい」と回答した割合は県の平均より14.6ポイント高く、「自分も持っている能力を十分に発きたい」では10.4ポイント上回った。集団の中で役に立ちたいという思いが高いと考えられ、係や当番活動の場面で活躍できるようにし、頑張ったことをクラスに周知することで意欲を高めていきたい。

● 「このテストの問題を解く時間は十分だったか」に、3教科ともに足りないと感じた児童が多かった。国語では、49ポイントで県の平均より16.6ポイント高く、算数では14.5ポイント、理科では7.1ポイント高かった。決められた量の課題を決められた時間内に終わらせることが苦手な児童が多いと思われる。普段の授業の中でも、決められた時間内に作業が終わるように習慣づけていきたい。

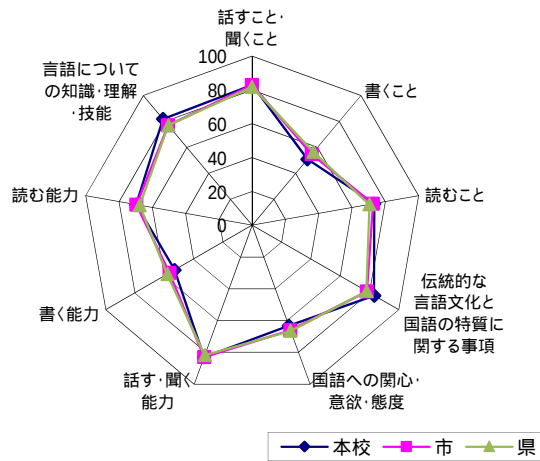
● 「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の質問に対して「あてはまる」と回答した割合が県平均と比べて8.5ポイント下回っている。自分から進んで学習をしたり、課題解決する力を伸ばせるように、授業で意識的に辞書を使う機会を作っていきたい。

● 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」に肯定的な回答をした割合は県の平均を17.9ポイント下回っている。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	83.0	82.9	81.8
	書くこと	50.9	54.8	56.5
	読むこと	73.3	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	63.2	66.0	66.4
	話す・聞く能力	83.0	82.9	81.8
	書く能力	53.0	56.3	57.9
	読む能力	69.6	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	82.0	77.2	77.1



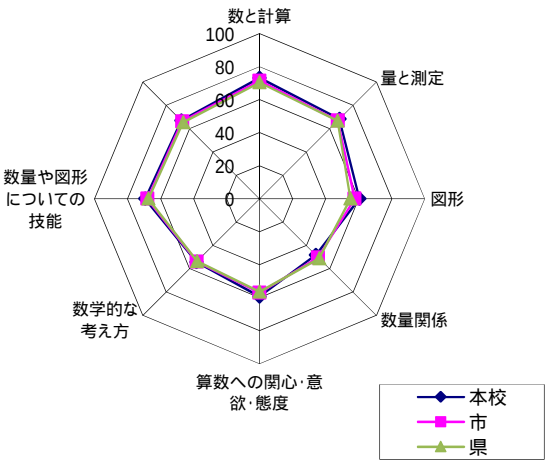
指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は83.0%で、県平均より1.2ポイント高い。 ○話し方の工夫に注意して聞き取る設問の正答率は、県平均より2.8ポイント、司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめる設問では、3.7ポイント高い。 ●話の中心に注意して聞き取る設問の正答率は、県平均より2.9ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話の中心をとらえるためには、話の全体像をとらえることと、着目するポイントを理解することが必要なので、メモを取りながら聞く活動や、そのあとみんなで聞いたことを確認して整理する活動を授業の中に効果的に取り入れていくようにする。 ・注意深く人の話を聞くことを意識的に行う機会として、授業中、友達の意見を自分の考えと比べながら聞く、自分にとって良いと思える友達の意見をメモする、という活動を継続的に行っていく。
書くこと	●領域の平均正答率は50.9%で、県平均より5.6ポイント低い。 ●アンケート調査の結果から読み取ったことと、それをもとに考えたことをまとめ、制限字数内に、2段落構成で作文を書く設問では、無答率が23.4%で、県平均よりも6.3ポイント高い。さらに、指定された長さの文章を書くことができた児童は55.3%で、県平均より6.6ポイント低い。 ○全て県平均を下回っている書く領域の中では、意見をもとに、ポスターの文を選んで答える設問が最も県平均に近い正答率で、1.4ポイント差となっている。	・見通しをもち、時間配分を考えて課題に取り組む練習をするとともに、限られた時間の中で、字数制限や条件に合わせて、テーマに沿って書く作文を練習する機会を作る必要がある。 ・日常的に書く活動を多く取り入れて、文章構成や効果的な表現が使えるように、継続的に指導していく。 ・他教科、例えば、算数・理科・社会などでも、自分なりに考えたことを言葉にしてまとめたり、伝え合ったりする活動を多く取り入れるようにする。 ・読書を奨励し、語彙を増やすとともに、効果的な表現に触れる機会を増やしていく。
読むこと	○領域の平均正答率は73.3%で、県平均よりも2.8ポイント高い。 ○県平均と比較すると、ほとんどの項目で正答率が上回っており、中でも特に高いのは、段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る設問で、8.6ポイント差となっている。 ●登場人物の気持ちを読み取る設問2問のうち、1問は同率、1問は県平均よりも僅かだが0.5ポイント下回っている。	・朝の読書や学級文庫の活用とともに、児童が興味をもつような読書環境を整え、多様な図書を手に入る機会をつくることで、話の全体像をとらえる力や多様な表現に対応できる力を養い、読むスピードを身に付けられるようにする。 ・説明的文章だけでなく、文学的文章において登場人物の心情を読み取る際も常に根拠は文章中の言葉にあるということを理解させ、自信をもって答えられるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は83.3%で、県平均よりも5.2ポイント高い。 ○漢字の読み書きの設問では、8問全ての正答率が県平均よりも上回っており、その差は1.8～10.9ポイントとなっている。 ○漢字辞典の使い方を理解しているかを問われる設問の正答率は、県平均よりも8.7ポイント上回っている。 ●連体修飾語について理解しているかを問われる設問の正答率は、県平均よりも僅かだが0.8ポイント下回っている。	・文法的事項については、朝の学習や授業の導入の時間を活用して、日常的に問題に取り組ませることにより、既習事項の定着を図る。 ・漢字の読み書きについては、引き続き、漢字ドリルを自ら意欲的に取り組めるような働きかけをするとともに、授業の導入の時間等を活用して常時ミニテストを行い、苦手な児童も無理なく取り組めるようにしていく。 ・語彙不足を解消していくためには、よりよい読書環境を整え、読書を奨励していくとともに、教科書に出てきた語句や、その使い方については、どの子も使えるように文づくりなどに取り組ませ、定着を図る。また、辞書を引く機会を多く取り入れる。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.2	71.5	70.4
	量と測定	68.4	67.0	66.9
	図形	60.4	57.6	55.0
	数量関係	48.2	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	59.2	57.0	56.3
	数学的な考え方	54.1	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	69.4	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	67.0	66.3	65.4



指導の工夫と改善

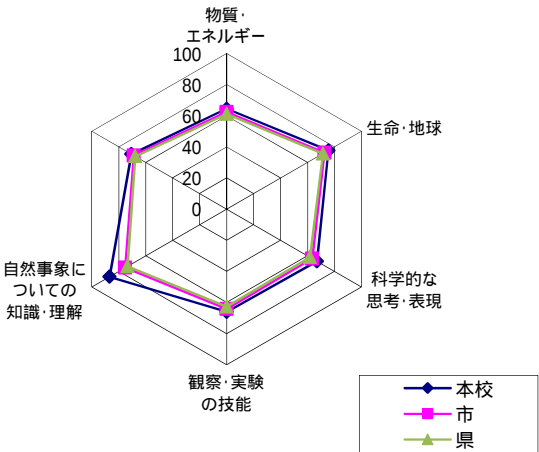
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 平均正答率は、73.2%であり、県平均よりも2.8ポイント上回っている。 ○ 設問内容では、「小数」や「分数」の小数の引き算が県平均よりも9.1ポイント、小数のかけ算が7.8ポイント、分数のたし算が8.0ポイント、分数の引き算が7.6ポイントとそれぞれ上回っている。 ● 設問内容では、「億と兆・概数の表し方」の数の相対的な大きさについての理解について、県平均より11.6ポイント下回っている。	・位取りの図や数直線を使って、視覚的に数の大きさを理解しやすくすることで、相対的な数の大きさの違いを把握しやすくする。 ・計算の技能については、現時点でも高いといえるが、継続して反復練習を行うことで、さらに質の向上を目指す。
量と測定	○ 平均正答率は、68.4%であり、県平均よりも1.5ポイント上回っている。 ○ 設問内容で、「角の大きさ」の分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取りが県平均よりも、5.6ポイント上回っている。「いろいろな形」の複合図形で、面積の求め方や図からの立式が県平均よりも5.0ポイント上回っている。 ● 設問内容では、「角の大きさ」の180°より大きい角の大きさを求める式が、県平均よりも5.9ポイント下回っている。	・既習の180°をさらに越えた「180°より大きい角」の概念を360°分度器などの具体物を用いて、より明確に角度のイメージを持たせたり、180°の分度器をひっくり返して使う指導などを重点的に行っていく。
図形	○ 平均正答率は、60.4%であり、県平均よりも5.4ポイント上回っている。 ○ すべての設問内容において県平均を上回っている。その中でも、「いろいろな形」の四角形の対角線の性質の理解が県平均よりも10.4ポイント、また直方体のある辺に垂直な辺についての理解が県平均を9.6ポイント上回っている。	・図形の性質を利用した作図の仕方を確認する。また、定規やコンパスの適切な使い方を指導することで、正確な作図が行えるようにする。 ・授業の中で、図形の性質を活用した問題にも触れさせて、説明の根拠として、図形の性質を扱えるようにさせる。
数量関係	● 平均正答率は、48.2%であり、県平均よりも2.9ポイント下回っている。 ● 設問内容では、「計算のきまり・変わり方調べ」の伴って変わる2つの数量の関係の立式が、県平均よりも15.4ポイント下回っている。 ○ 県平均を有意に上回る項目はないが、その中でも「折れ線グラフと表」の折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠とした理由の説明が、県平均よりも4.6ポイント上回っている。	・□を使った式の扱いについて、話し合わせるなどして、十分に理解を深めさせるように指導したい。 ・一方の数が変わると、もう一方の数も変わるという例を日常生活の中から事例を探させるなどして、伴って変わる2つの数量について十分に慣れさせたい。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.5	62.4	61.1
	生命・地球	75.5	72.5	71.4
観点	#REF!	66.9	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	66.0	64.1	62.6
	観察・実験の技能	86.8	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	70.7	68.8	67.8



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○ 領域の平均正答率は64.5%で、県平均より3.4ポイント上回った。 ○ 設問別に見ても正答率が県平均を上回っているものが多く、全体的によくできていると言える。 ○ 特に正答率が高かったのは「温度による空気の体積変化」に関する設問で、正答率が93.6%と県平均を9.5ポイント上回っている。他にも「水を熱したときの温度の変化」や「温度による金属の体積変化」、「水を冷やしたときの状態変化」などで、正答率が県平均を大きく上回っていた。 ● 「水を温めると体積が大きくなること」についての設問の正答率は68.1%で、県平均より5.1ポイント下回っている。	・ 今回の結果は全体的によくできていると言えるが、今後も既習内容の復習をしっかりと行って定着を図るとともに、実験の結果から考察する時間を多く取り、科学的な思考力を高められるようにする。 ・ 「温めると体積が大きくなること」については、水も、空気や金属と同じであり、体積変化の割合が「金属→水→空気」の順に大きくなることとともにしっかりと復習し、定着を図る。
生命・地球	○ 領域の平均正答率は75.5%で、県平均より4.1ポイント上回った。 ○ 設問別に見ても正答率が県平均を上回っているものが多く、全体的によくできていると言える。 ○ 特に正答率が高かったのは「気温と生物の活動の様子の変化」についての設問で、正答率が95.7%と県平均を8.2ポイント上回っている。他にも「天気の様子と気温」や「星座早見の使い方」についての設問では正答率が90%を超え、県平均を大きく上回っている。 ● 「ヘチマの実の中に種ができること」に関する設問の正答率は80.9%で、県平均を10ポイント下回っている。 ● 「筋肉の働きで身体が動くこと」についての設問の正答率は70.2%で、県平均を10.1ポイント下回っている。	・ 今回の結果は全体的によくできていると言えるが、今後も既習内容の復習をしっかりと行って定着を図るとともに、観察の結果から考察する時間を多く取り、科学的な思考力を高められるようにする。 ・ 「ヘチマの実の中に種ができること」については、他の植物同様、ヘチマも実の中に種を作ることによって生命をつなげていることをしっかりと確認し、定着を図る。 ・ 「筋肉の働きで身体が動くこと」については、関節の内側と外側のどちらの筋肉が縮むとどちらに動くのかをしっかりと確認し、定着を図る。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問紙調査

傾向と今後の指導上の工夫

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

○ 「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」に対する肯定的回答の割合は93.6%と高く、県平均を11.3ポイント上回っている。児童それぞれがきまりを守る大切さを自覚しながら生活していると考えられる。今後も学年やクラスで課題が出た際に、学級活動の時間などを利用して児童自身が考えながら話し合い、皆できまりを守る意識を高めていきたい。

○ 国語が将来のために大切だと思っている児童の肯定的回答の割合は100%であり、県平均より5.3ポイント高い。日頃から漢字や文法の大切さを指導している結果だと考えられる。国語だけでなく、他の教科の重要性や学習したことが将来どのように活用できるかなど、具体的に指導していきたい。

● 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」に対する肯定的回答の割合は29.7%で、県平均より18.7ポイント下回っている。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に対する肯定的回答の割合は63.8%で、県平均より1.3ポイント下回っている。このことから児童が自ら課題を調べる機会が少ないことが窺える。総合的な学習の時間や社会科などの時間に本やインターネットを活用して課題を調査する時間を設け、児童が進んで学習に関することを調べる意欲を高める手立てを行っていきたい。

● 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に対する肯定的回答の割合は72.4%で、県平均より10.9ポイント下回っている。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的回答の割合は78.7%で、県平均より8.4ポイント下回っている。授業中にペアやグループでの活動を多く取り入れ、全ての児童が自分の考えや意見を発表する場を設定していきたい。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に対する肯定的回答の割合は70.2%で、県平均より7.4ポイント下回っている。グループ活動の場での役割をそれぞれに与え、全員が自主的に参加する意欲を高めていきたい。

● 「自分の行動や発言に自信をもっている」に対する肯定的回答の割合は53.2%で、県平均より9.2ポイント下回っている。また、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」に対する肯定的回答の割合は70.2%で、県平均より3.6ポイント下回っている。自分の意見があったとしても自信が無く、積極的に発言できない児童が多いので、教師や児童同士が指名してより多くの児童が発言できる機会を増やしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学び合う活動の実践 ・「めあて」「まとめ」「ふり返し」の確認・徹底 ・家庭学習の習慣化・充実に向けた指導の工夫と奨励	・自分の考えを言葉や文章、式、図等で表現したり、いろいろな形態（ペア・グループ・全体）で学び合ったりする場を設定している。 ・全教職員が共通理解のもとに、授業において「めあて」「まとめ」「ふり返し」を板書し、児童と共に確認し、ノートにまとめる指導を行っている。 ・「家庭学習のすすめ」や「家庭学習の手引き」などを活用し、宿題以外にも自分で考えた学習をするように指導している。また、学習の仕方について例を示したり、友達のやり方を紹介したりしている。	・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合は、県平均とほぼ同じになっている。 ・「授業の中で、めあてが示されている」の肯定的回答の割合は、4年は県平均を上回っているが、5年は下回っている。「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、県平均を下回っている。 ・「家で、学校の宿題をしている」に対する肯定的回答の割合は、県平均を上回るかほぼ同じになっているが、「家で、学校や塾の決められた宿題のほか、自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は、県平均よりも低い。

学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の「書くこと」において、正答率が低い。 ・本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ていると回答した児童の割合が低い。	・文章を書く場を多く設定をする。 ・国語辞典、その他の本や、インターネットを活用する。	・国語やそれ以外の教科においても、文章を書く場を多く設ける。よい文章の例を示す。 ・国語辞典やその他の本、インターネットを活用した学習を行う。読書を奨励する。 ・視聴覚教材を生かして、指導を行う。